



2月幼稚園だより

令和7年2月3日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

相手を想う



(番町幼稚園HP)

園長 中村 千絵

いよいよ2月となりました。子どもたちの成長した姿がたくさん感じられます。1月24日は、千代田区教育委員会研究協力園として保育を公開し、都外の方も含め多くの方に、本園の子どもたちの遊びの豊かさを見ていただきました。参観者が多くいる中でも、いつもの様に「しっかり遊ぶ」子どもたち。講師の先生から「遊びに本当の意味で集中しているから出てくる姿」との言葉をいただきました。

先日、子どもたちの気持ちの豊かさや成長を感じるこんなことがありました。

5歳児うめ組の子どもが「園長先生、来て！見て！」と校庭に呼んでくれました。
そこには、タイルの間から5mmくらいの小さなクローバーが芽吹いています。
「これ、見たからね、園長先生は幸せになれるんだよ」とその子が言いました。他のうめ組の子どもたちも近くに来て、「僕たちだけじゃなくて、うめ組みんな、そうだ、幼稚園にあったから、子どもがみんな幸せになるんじゃないの？」と言い、もう一人の子どもが「子どもだけじゃないよ、番町幼稚園の大人も幸せになるよ、先生とかね」と重ねて話していました。もうすぐ立春。一足先に春がやってきた子どもたちの会話でした。



子どもが校庭で見つけた四つ葉のクローバー

うめ組のこの時期ならではの、自分たちのことだけでなく、他の学年のことも、大人のことにまで、気持ちを広げていっている子どもたちの姿です。

自分を確立する

自他の区別が曖昧な3歳児もも組の時期。おうちの人が「こうしてほしい」と思っていることを自分の気持ちのように感じていたり、自分の思いは周りの人が分かっているものだと感じていたりします。入園して、自分は何をしたいかを決め、遊びに必要な物や場所を自分で作っていく中で、「自分がやりたいこと」が明確になっていきます。

自分と相手との違いに気付く

4歳児さくら組になると、友達とのトラブルが増えてきます。「その積み木、僕が使おうと思っていたのに」「〇〇ちゃんが仲間に入れてくれない」そんな言葉がたくさん聞こえてくる時期があります。友達への関心が出てきて、一緒に遊びたいと思っているのに、うまくいかない。この経験がとても大切なのです。トラブルがあることで、自分と相手と考えが違うということに気付くのです。違うことを理解し、でも、一緒に遊びたいから、けんかになりながらも、知恵を出し合っていくのです。

友達の個性を感じ、相手を想う

何度もけんかになりながら、一緒に遊んできた月日は、学級の中での互いの違いや個性についての気付きを生んでいきます。子どもたちが互いに、「コマを回すのが得意な子」「四つ葉のクローバーを探すのが得意な子」「遊びのアイデアをたくさん出してくれる子」そんな魅力を感じ、「怒ると大きな声を出しちゃう」「すねちゃう時がある」「負けると泣いちゃう」そんな個性にも気付いていく、そして受け入れていくのだなあ、子どもたちを見ていると感じます。

幼稚園の庭も もうすぐ春



ローズマリーは花ざかり



ソフブキが花を咲かせています



カリフラワーが大きくなりました

様々な個性のある人たちがいるから、世界は楽しく豊かになります。幼稚園がそのことを感じる「最初の一步」になってほしいと思います。67人の子どもたちの「一人一人の輝き」が互いの遊びと生活を魅力的なものにしていくよう、私たち教師は、年度末最後の充実に向け、環境と指導の充実にか力を尽くしてまいります。